

第2回「全国栄養経営士のつどい」福岡大会 全国から150人が参集し、盛大に開かれる

栄養経営士の新たな挑戦が 医療・介護の未来を切り拓く

一般社団法人日本栄養経営実践協会は3月12日(日)、パピヨン24ガスホール(福岡県福岡市)にて第2回「全国栄養経営士のつどい」を開催した。昨年の東京大会に続き、2回目の開催となった今大会のテーマは、「栄養部門が変われば病院・施設が変わる―栄養経営士が創る医療・介護の未来像」。全国から150人の栄養経営士が参集し、熱気あふれるイベントとなった。

自らの使命を再考し

新たな一歩を踏み出そう

大会は当協会の宮澤靖代表理事による開会の挨拶で幕を開けた。宮澤氏は昨今の医療制度改革の流れを踏まえ、管理栄養士に求められる役割が多様化していると指摘したうえで、「栄養経営の実践に向けてぜひ頑張っていたきたい」とエールを送った。

続いて地元開催とい

うことで挨拶に立った

日本栄養経営実践協会九州支部長の片桐義範氏(福岡女子大学国際文学部食・健康学科教授)は、「大会を通して情報交換、ネットワークをしっかりとつくり、栄養管理の向上に努めていただきたい」と栄養経営士の活動に期待を寄せた。



片桐九州支部長



基調講演の栗原氏



特別講演①の佐々木氏



特別講演②の長氏

団法人是真会長崎リハ

ビリテーション病院理

事長・院長の栗原正紀氏が「地域医療における管理栄養士の任務、地域を支えるために果たすべき役割」をテーマに登壇した。栗原氏は、地域包括ケア時代になり医療に生活の視点が求められるなか、リハビリテーションと栄養管理がますます重要になると指摘。「食の文化や歴史を知り、美味しいものを食べる喜びをもっと感じて、食べることを本当に大事にしてほしい」と呼びかけた。

踏まえながら、「在宅

医療は病気や障害があ

っても人生を最期まで充実させるための手段であり、生活背景などを考慮したさまざまな選択肢を考案することが大事。管理栄養士が専門性を発揮し、他職種と協働すれば地域を救うことができる」と訴えた。



開会の挨拶を述べる宮澤代表理事

①「在宅医療における栄養管理の重要性と管理栄養士の責務」が行われた。佐々木氏は在宅医療で活躍する管理栄養士が少ない現状を

「管理栄養士のための『知っておくべき』医療介動向」が行われた。長氏は2018年度診療報酬・介護報酬の同時改定や厚生労働省が策定した「保健医療2035」などの話題に触れながら、医療・介護分野の未来像

4人の栄養経営士が登壇
実践の成果を報告

休憩を挟み、午後には東日本税理士法人代表社員・所長の長英一郎氏による特別講演②「管理栄養士のための『知っておくべき』医療介動向」が行われた。長氏は2018年度診療報酬・介護報酬の同時改定や厚生労働省が策定した「保健医療2035」などの話題に触れながら、医療・介護分野の未来像

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう!

第4回
「栄養経営士」
資格認定試験

2017年 6月11日(日)

- 受験料: 8,000円(税込)
- 試験会場(予定): 札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
- 受験資格: 管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
DVD視聴による受講も可能です!

3枚組、特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

栄養経営士

検索





実践報告をした4人の栄養経営士は、会場の参加者と活発な意見交換を行った



実践報告後のディスカッションで座長を務めた山下理事

を自身の病院・施設見学の体験を交えて解説。「アウトカムが求められるようになっていくからこそ、リハビリと栄養管理が重要。結果を出すためには病棟だけでなく、施設や在宅に目を向けた取り組みが不可欠」と管理栄養士の意識改革を促した。

「情報提供で活用している栄養治療実施報告書はどのよう内容か」「委託業者とビジョンを共有しながら責任を持ってサービスの質を追求してもらおうにはどうすればよいか」など、発表を踏まえた具体的な質問が数多く挙げられ、会場は活気につまれました。



特別ディスカッションのパネリスト(左から大谷理事、吉田理事、片桐九州支部長)

「管理栄養士の教育改革には何が必要か」といったテーマについて、それぞれの立場から意見が交わされた。宮澤代表理事は、栄養分野に携わる者の今後の課題として、①食事の名称の標準化、②アウトカムを出すことを心がける、③国に対して意見を伝えられる体制をつくる——の3つ

「現場で活かすためには意識改革が必要」プログラムの最後を飾る特別ディスカッション「栄養経営士が創る医療・介護の将来像」には、座長の宮澤代表理事、パネリストの大谷幸子理事、吉田貞夫理事、片桐義範九州支部長が登場。「管理栄養士は非常に勉強熱心だが、成果に現われないのはなぜか」「管理栄養士の教育改革には何が必要か」といったテーマについて、それぞれの立場から意見が交わされた。

閉会の挨拶は当協会の監事を務める古畑公氏が行った。古畑氏は自身の厚生労働省時代を振り返りながら、「自分の覚悟を周囲に見せることで、一緒に取り組んでいくことができる」と気構えの重要性を説き、会場からの盛大な拍手とともに大会は閉幕した。

終了後は懇親会が催され、参加した栄養経営士は互いに親睦を深め、さらなる飛躍を誓い合った。



懇親会で中絶の挨拶をする大谷理事



閉会の挨拶を述べる古畑氏

実践報告を終えて——発表者からのメッセージ

●報告テーマ

「アウトカムが出せる栄養サポートをはじめよう～栄養介入の選択と集中～」

もり しげお
森 茂雄さん
JA愛知厚生連
稲沢厚生病院
栄養科係長



今回のディスカッションは、座長の山下茂子先生の温かい人柄と参加者の熱意が伝わるものでした。栄養サポートは、すぐに取り組めることを選択して集中介入すると結果につながりやすいのですが、机上の知識だけでは通用しないことも多いと感じています。知識を活かすためには、コミュニケーション能力が必須で、コミュニケーション能力があれば、職場環境の改善やレベルアップにもつながります。

大勢の参加者を前に発表や質問をすることは、コミュニケーション能力を高める練習になります。ぜひ来年は皆さんも発表に挑戦し、その後の懇親会を楽しみませんか？ 栄養士は人の役に立てる仕事です。皆で患者さんと地域に貢献しましょう。

●報告テーマ

「管理栄養士の病棟配置に取り組んで」

こねもり ともこ
小根森 智子さん
佐賀県医療センター好生館
栄養管理部栄養管理長



初めて大会に参加させていただきました。病態や栄養の話はよく聞きますが、運営の話聞く機会はないのでとても勉強になりました。決して成功しているわけではない私が報告させていただくことになり、自分自身の活動を振り返っていくなかで、何ができて何が欠けていたのかを思い知る機会になりました。専門分野を磨き、実績を上げることはもちろんですが、人材育成を通して体制を整えながら、増員がさらによい方向に業務を進めていくことを、私の事例を反面教師に実践していただければと思います。

栄養経営士の資格を取得して終わりではなく、さらに自己研鑽と実践を重ね、患者さんをはじめ周囲のスタッフの幸せに貢献していきたいと考えています。

●報告テーマ

「現場づくりの10年とこれから」

ながしま しずこ
長島 静子さん
社会医療法人財団大和会
武蔵村山病院
栄養科科長補佐



病院の管理栄養士として働き始めて17年、栄養科や管理栄養士に求められる役割が次第に変わってきました。大会では他の病院の取り組みを聞くことができ、やりたいこと、やらなければならないことがより明確になりました。もっと早く栄養経営士の資格が誕生していればと思いました。

病院の開院という貴重な経験をさせていただき、ゼロから組織を作り上げるためには他職種協働が欠かせないと痛感しました。患者さん一人ひとりに合わせた栄養管理は、管理栄養士だけではできません。他のスタッフにどのように伝えたらよいか、どうしたら伝えるのかを常に考え、行動するように心がけています。特に上層部を動かすためには数値化することが重要だと感じています。

●報告テーマ

「退院支援に向けた院内外のマネジメントに取り組んで」

とわたり
戸渡 まゆみさん
遠賀中間医師会
おんが病院
管理栄養士



発表した最大の収穫は、NSTメンバーと活動を振り返り、院内・退院先の多職種連携に取り組んだ成果を再認識できたことです。これまでは病院側の視点だけでしたが、院外からみるとどうなのか、客観的に分析できました。次年度の目標は、院外の視点をプラスして活動内容を検討し、アウトカムを出すことです。

活動を通して、NSTの目的意識とモチベーションが強化されました。これを踏まえた今後の課題は、①院内におけるNST活動の理解をさらに深めること、②院外における重症化予防に対する認識のすり合わせ——の2点です。病院・施設間で情報共有し、共通認識を持って早期介入できる仕組みづくりを念頭に、地域連携NSTとしての活動に取り組んでいきます。

日本栄養経営実践協会理事・真壁昇氏からのメッセージ

高度な専門的スキルを有した 管理栄養士が現場で活躍するために

4月から、全国3か所で開催予定の「結果につながる栄養経営実践セミナー」(詳細は4面下)。本セミナーの講演者であり、『栄養経営士テキスト』の執筆者でもある日本栄養経営実践協会理事の真壁昇氏より、栄養経営士が進むべき方向性についてメッセージをいただきました。



日本栄養経営実践協会理事
関西電力病院栄養管理室室長
真壁昇氏

高齡社会をむかえ、糖尿病や腎臓病など複数の基礎疾患を抱える高齢者が激増し、多大な医療費がかかるようになってきました。このような状況を背景に、近年は単に治療に有効というだけでなく、費用対効果の優れた対応が求められています。周知のとおり栄養療法は非常に費用対効果の優れた治療法のひとつとして診療ガイドライン等で強く推奨され、病態栄養学に精通した臨床医や管理栄養士が、看護師や薬剤師など多職種と連携してチームメイト的な栄養療法を実践することが期待されています。

また、効率のよい「くすり」の効果発現にも栄養状態の重要性が叫ばれており、各疾患の病態に適した栄養療法を、科学的根拠に基づいて議論し実践できる管理栄養士のニーズが高まっています。これに対応すべく、多くの学術団体が疾患領域別の専門性向上を目的とした育成事業を実施し、専門性の高い管

理栄養士が次々と輩出されるようになってきました。しかし一方で、このような専門性の高い管理栄養士が最大限に活用されている現場は、まだ少ないように思います。当協会では、専門性の高い管理栄養士の能力を活用した栄養マネジメントが診療報酬・介護報酬と合致するよう探求し、病院・施設経営に直結する情報発信に努めています。栄養の専門家である管理栄養士の仕事はこれからどうなるのか、政策としてどう動くかという点について、先見の明がない不安があるかもしれません。われわれ管理栄養士の現在の行動が未来を決めるのです。

記しました。共通したポイントは、「患者視点をおぼろげに忘れないこと」、そして「患者・医療人にわかりやすいプレゼンテーションをする」とです。この能力開発のために必要なのは、「コミュニケーション力」と「臨床家としてのコモンセンス」でしょう。これらの能力を磨く出発点は、臨床現場で多職種と語り合い、各専門職の考え方や知識を学び、悩みを知ること、そして、今できることを実践することです。

幅広い疾患別の病態栄養学を習得したうえで、高度な専門的スキルを持つ管理栄養士が求められています。このような知識を持った管理栄養士が治療に参画することで、患者さんにとっても病院経営にとっても大きな貢献ができるでしょう。

文字や言葉にできない暗黙知を『栄養経営士テキスト』の行間や、4月から始まる「結果につながる栄養経営実践セミナー」(4面下参照)から汲み取ってほしいと願います。

管理栄養士の本気スイッチが入った瞬間

1990年、長野市

市民病院の栄養科に入職

して1年目の私に与え

られていた仕事は2

つ、食器洗浄と病室へ

の配膳・下膳だけで

した。そんななか救

だったのは、病棟へ食

事をお持ちするとき

に、患者さんとさまざ

まなお話ができた

たことです。

生意気な若造

でしたから、つ

まらなような顔

をして食事を運

んでいたので

しょう。ある患

者さんが、「兄ちゃ

ん、どうした? 若い

ときの苦労は買って

でもしなきゃダメだよ」

と話しかけてくれたの

です。それからその方

と親しくなって、毎

日、いろいろな話をし

ました。

ある日、いつものよ

うに病室にうかがう

と、そこは空きベッド

になっていました。看

管理栄養士として心が

折れそうになる度、初

めて白衣に袖を通した

ときの初心を思い出

し、もう一度頑張ろう

と言いつつ30年

間、管理栄養士を続け

ています。

当時、栄養科の科長

には「病棟に行くと思

者さんの要望にこたえ

なければならぬ。仕事

が増えるから行くな」

と言われていました。

病棟の看護師長

も科長に「また、あな

たのこの男の子が

私たちの病棟にきて

たわよ」とクレームを

言っていたようです。

自分たち看護師の領域

に、食事の担当者がく

ることが不満だったの

でしょう。毎日怒られ

「すみません」と謝り

ながら、頭の中ではそ

の日の夜の栄養アセス

メントプランを立てて

いました。



宮澤靖代表理事の歩みを、ご自身のお話から振り返ります。

患者を栄養で助けたい! 若い魂にともった熱い炎

本コーナーでは3回にわたり、栄養経営の道を切り拓いてきた宮澤靖代表理事の歩みを、ご自身のお話から振り返ります。

特別連載

宮澤靖代表理事が歩んできた道(上)

なかでカチッと音がして、スイッチが入った瞬間でした。「人の死を何だと思っ

ていたのしょう。ある患者さんが、「兄ちゃん、どうした? 若いときの苦労は買ってでもしなきゃダメだよ」と話しかけてくれたのです。それからその方と親しくなって、毎日、いろいろな話をしました。ある日、いつものように病室にうかがうと、そこは空きベッドになっていました。看

NSTを学びたい!強い決意でアメリカへ

そんな折、外資系製薬会社に勤めるMRの方から、NSTという当時最先端のシステムを教えていただきました。「このシステムを日本の病院に導入すれば、必要な患者さんすべてに適切な栄養管理を提供できるかもしれない」と思い、本気で勉強したいと思いましたが、しかし、日本にはNSTを実践している病院はありません。そこで、情報を教えてく

も科長に「また、あなたの子が私たちの病棟にきていたわよ」とクレームを言っていたようです。自分たち看護師の領域に、食事の担当者がくることに不満だったのでしょう。毎日怒られ「すみません」と謝りながら、頭の中ではその日の夜の栄養アセスメントプランを立てていました。(次号に続く)

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報などを掲載します。

「ヘルスケア・レストラン」主催

2017年度も開講決定! 実践! 栄養管理講座

「患者を診られる・栄養管理計画を立てられる・医師に提案できる」をコンセプトに、昨年4講座を開講して好評だった「実践! 栄養管理講座」。2017年度も開講することが決まりましたので、第一報をお知らせいたします。

今年度は、内容レベル別にElementary class (初級クラス)とAdvanced class(上級クラス)の2クラスに分け、各3講座ずつを開講する予定です。

現場ですぐに活用できる栄養管理の知識を学びながら、管理栄養士の仲間を増やしていきましょう。栄養経営士の皆さまのご参加、お待ちしております!

詳細は決まり次第随時、「ヘルスケア・レストラン」誌面や日本医療企画ホームページなどでお知らせいたしますので、楽しみに!

Elementary class(初級クラス)

講座1: 栄養管理に役立つフィジカルアセスメント

6月24日(土) 13:00~17:00

講座2: 血液検査から画像診断まで、栄養管理に役立つ臨床検査学

7月22日(土) 14:00~17:30

講座3: 栄養管理に必要な水電解質、酸-塩基平衡異常のアセスメント

8月26日(土) 13:00~17:00

Advanced class(上級クラス)

講座1: 水電解質補給から栄養補給まで、栄養管理に役立つ輸液管理

9月30日(土) 13:00~17:00

講座2: 栄養管理に役立つ薬理学、生化学

10月28日(土) 13:00~17:00

講座3: 実践栄養トレーニング(於テルモメディカルプラネックス)

11月25日(土) 13:00~17:00

○講師: 谷口英喜氏(済生会横浜市東部病院周術期支援センター長・栄養部部長)

○会場: 東京都千代田区神田東松下町17 もとみやビル3階

※内容、日程等は変更になる場合があります。詳細は日本医療企画ホームページ等をご確認ください。



昨年の「実践! 栄養管理講座」でも、谷口先生の講座「栄養管理に必要な診断学」(全6回)は大人気

フォーラム情報

リハ栄養フォーラム2017

【大阪会場】

○日程: 5月14日(日)12:30~16:30

○内容: 総論「Basicリハ栄養~”物語”のはじまりへ~」、実践報告・症例検討ほか

○講師: 藤原 大氏(公益財団法人宮城厚生協会坂総合病院リハビリテーション科科長)ほか

○会場: グランキューブ会議室1001~1003(大阪市北区)

○参加費: 3,000円

○定員: 570人(定員になり次第締切)

【名古屋会場】

○日程: 5月21日(日)12:30~16:30

○内容: 総論「リハ栄養入門~リハ栄養の視点と実践~」、症例検討・実践報告ほか

○講師: 前田圭介氏(一般社団法人玉名郡市医師会立玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科NSTチェアマン)ほか

○会場: ウィンクあいち大ホール(名古屋市中村区)

○参加費: 3,000円

○定員: 600人(定員になり次第締切)

○主催: 日本リハビリテーション栄養研究会

○共催: 株式会社クリニコ

○お申込(2会場共通)はホームページ(<http://e-toroku.jp/rihaeiyo2017/>)から

セミナー情報

PDNセミナー PEGサミットinびわ湖

○日程: 7月29日(土)~30日(日)

○内容: 「目からうろこの講演」「じっくり考えるグループワーク」「明日から役立つ実技セミナー」を3本柱にした合宿形式の研修会

○会場: アヤハレークサイドホテル(滋賀県大津市におの浜3-2-25)

○お問い合わせ: TEL:077-523-2078 FAX:077-523-2234

(医療法人西山医院・西山順博)

○詳細は、PEGサミットinびわ湖ホームページ(<http://www.medic-grp.co.jp/doctor/peg/>)にて随時公開予定

臨床現場の第一線で活躍できる管理栄養士になろう

ヘルスケア・レストラン特別セミナー 中鎖脂肪酸の活用で患者ベネフィットの向上をめざす

結果につながる 栄養経営実践セミナー

東京会場: 4月8日(土) 12:30~16:30(予定)

講演①: 真壁 昇先生

(関西電力病院栄養管理室室長・日本栄養経営実践協会理事)

講演②: 宮島 功先生

(近森病院栄養サポートセンター主任・管理栄養士)

講演③: 蓮村 友樹久先生

(愛全診療所所長・医師)

大阪会場: 4月22日(土) 13:00~17:00(予定)

講演①: 真壁 昇先生

(関西電力病院栄養管理室室長・日本栄養経営実践協会理事)

講演②: 宮島 功先生

(近森病院栄養サポートセンター主任・管理栄養士)

講演③: 阿部 咲子先生

(介護老人保健施設スカイ栄養経営士)

福岡会場: 5月13日(土) 13:00~17:00(予定)

講演①: 真壁 昇先生

(関西電力病院栄養管理室室長・日本栄養経営実践協会理事)

講演②: 宮島 功先生

(近森病院栄養サポートセンター主任・管理栄養士)

講演③: 吉村 芳弘先生

(熊本リハビリテーション病院栄養管理部部长・リハビリテーション科副部長)

内容監修 宮澤 靖先生(日本栄養経営実践協会代表理事)

参加費 日本栄養経営実践協会会員 3,000円(税込) 一般 5,000円(税込)

くわしくは <http://www.jmp.co.jp/nmseminar/>

または 日本医療企画 栄養経営セミナー

検索